

吉野川水系河川整備計画

～策定に向けたとりくみ～

ニュースレター

Vol.9 速報版

平成20年3月発行

「第3回 吉野川流域住民の意見を聴く会」

(下流域・徳島市会場【環境・維持管理】、【全般・その他】、追加開催)

(中流域・美馬市会場)を開催しました。

四国地方整備局では、現在「吉野川水系河川整備計画」の策定に向けた取り組みを行っています。第3回吉野川流域住民の意見を聴く会を1月14日、1月20日、1月27日、2月3日に開催し、「吉野川水系河川整備計画【再修正素案】」について住民の方々からご意見をお聴きしました。

■概要（徳島市会場【環境・維持管理】）

開催日：平成20年1月14日 13:00～18:03

開催場所：徳島県建設センター 参加人数：69名



■会場での主な意見

- 吉野川の水環境について、水質のことは素案に記載されているが、水量の確保も重要である。維持流量を確保するということを記載してほしい。
- アユというのは、吉野川の一つの指標生物と思うので、素案にも記載したほうがいいと思う。
- 自然を守ることと環境を良くすること、これらは大切なことである。しかし、その根底となるのは、人の命や財産を守ることであり、人々がこれからも生きていけるということである。
- 土砂流出の抑制策として、学術会議などの最近の知見を入れて、対策の検討を行ってほしい。

■概要（美馬市会場）

開催日：平成20年1月20日 13:00～17:20

開催場所：四国三郎の郷 交流体験棟 参加人数：50名



■会場での主な意見

- 毛田地区の堤防整備に着手してほしい。
- 吉野川北岸で遊水地帯で面積や被害が一番大きい沼田地区だと思う。堤防整備を早い時期にぜひ着工していただきたい。
- 三野町と美馬町の河川敷を利用し、徳島県の県西部（吉野川中流域）の拠点として、官民協働でこの地区の活性化を図っていこうと思っている。
- 10年の計画が示されたということで、非常にありがたい。それが出来るように予算獲得を一生懸命してほしい。
- 吉野川らしさは竹林の景観だと思う。この景観を30年先の子供たちに同じような形で残してやりたい。

■概要（徳島市会場【全般・その他】）

開催日：平成20年1月27日 13:00～18:20
開催場所：ホテル千秋閣 参加人数：57名



■会場での主な意見

- 河川整備計画策定後、河川整備基本方針の基本高水ピーク流量24000m³/sと河川整備計画の目標流量19400m³/sとの差分をどうするか、その方策について速やかに検討に着手すべきである。
- 森林については、わたしたちも木を植えることに努力・協力したい。
- ダムの堆砂や濁水の抜本的な対策として、森林の土砂流出機能も計画に含めるべきである。
- 森林の専門家や林野庁など関係機関の方にも参加していただき、意見を聴きたい。
- この会は、専門家がいなため、議論が平行線になってしまう。それぞれのテーマの分科会を開催し、さらに客観性をもった中立の機関を設けるべきだと思う。
- 議論と言われる方は、洪水が起こった場合、その保証をしてくれるのか。どうか一日でも早い整備計画の着工をお願いしたい。

■概要（徳島市会場【追加開催】）

開催日：平成20年2月3日 13:00～18:27
開催場所：徳島県建設センター 参加人数：88名



■会場での主な意見

- 森林整備によって、浸透能が高ければ、河川に対する流出の時間差が出来るのではないか。
- アユは吉野川にとって非常に大事な生物である。指標にすることは難しいが、現状認識・課題については記載してほしい。
- 整備計画をいつまでに策定するという目標を示すべきではないか。もう少しこのやり方で意見を聞いて、その後は質をどう深めていくかということだと思う。
- 延々と会議を続けても同じ意見の繰り返し。公平性・透明性・中立性を図る機関が必要で、何らかの仕組みを考えていただきたい。
- 会のあり方を論議するよりも、まず地域の住民の皆さんの生命、財産を守ることが前提でなくてはならない。
- 国土交通省に農林水産省のことをいっても無理であり、我々も立場を考えるべきである。

※誌面の関係上頂いたご意見全ての記載はできませんでした。ホームページには速記録を公開いたします。

吉野川水系河川整備計画や会議資料の閲覧については…

- 「吉野川水系河川整備計画【再修正素案】」については、国土交通省の関係機関及び各市町村の窓口で閲覧いただけるほか、ホームページからダウンロードすることもできます。

徳島河川国道事務所内
閲覧コーナー



吉野川水系河川整備計画ホームページ
<http://www.yoshinoriver.info>

